

2025 年 12 月 7 日 (日)

日本キリスト教団 ^{きゅうほうきょうかい} 久宝教会

第 68 巻第 34 号 (通算 3471 号)

教会設立 1959 年 6 月 14 日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺 6 丁目 7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう
週報

教会標語

^{ちい}小さくされている^{ひと}人を
^{たいせつ}大切にする^{きょうかい}教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>

【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

谷はすべて埋められ、山と丘はみな低くされる。曲がった道はまっすぐに、
でこぼこの道は平らになり、人はみな神の救いを見る。(ルカによる福音書 3:5-6)

^{たいこうせつ} ^{だい} ^{しゅじつ} ^{れいはい}
待降節 第 2 主日礼拝

《^{れいはい}礼拝はインターネットで^{ちゅうけいはいしん}中継配信いたします。ホームページにてどなたでも^{しちやう}ご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂^{ただ}けます》

^{ぜんそう} ^{もくとう} 前奏 (黙祷) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

^{まね} ^{ことば} 招きの詞 ^{しへん} 詩編 ^{へん} 19編 ^{せつ} 8-9節

^{さんびか} 賛美歌 21-242 番「主を待ち望むアドヴェント」(1,2節のみ)(©JASRAC)

^{てんとう} ^{ことば} クラント点灯の詞

^{さんびか} 賛美歌 21-244 番「キリストは明日おいでになる」(©JASRAC)

^{せいし} 聖書 ^{しよ} エレミヤ書 ^{しょう} 36 章 ^{せつ} 1-8, 22-28 節

^{いの} お祈り

^{さんびか} 賛美歌 21-237 番「聞け、荒れ野から」(©JASRAC)

メッセージ「神は決して諦めない」 ^{うしだ} ^{ただし} ^{ぼくし} 牛田 匡 牧師

^{さんびか} 賛美歌 21-231 番「久しく待ちにし」(©教団讃美歌改訂委員会)

^{ユーカリスト} 聖餐 ^{うしだ} ^{ただし} ^{ぼくし} 牛田 匡 牧師

^{きやうどう} ^{いの} ^{へいわ} 共同のお祈りと、平和のあいさつ

^{さんびか} 賛美歌 21-524 番「われらみ名により」(©著作権消滅)

^{しゅ} ^{いの} 主の祈り

^{ささげもの} 献げ物 (*)

^は ^{けん} 派遣 21-91 番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ)(©JASRAC)

^{しゅくふく} 祝福 ^{うしだ} ^{ただし} ^{ぼくし} 牛田 匡 牧師

^{こうそう} 後奏 アーメン コーラス (21-40-6 番)(©教団讃美歌委員会)

^{ほうこく} 報告 (4 頁をご参照ください)

《^{せき} ^{すわ} 席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

* 「^{ささげもの} 献げ物 (献金)」はご用意のある方のみ、お献^{ささ}げください。

招きの詞 詩編 19 編 8-9 節（聖書協会共同訳）

⁸ 主の律法は完全で、魂を生き返らせ／主の定めはまことで、無知な者を賢くする。

⁹ 主の諭しはまっすぐで、心を喜ばせ／主の戒めは純粹で、目を光り輝かせる。

クランツ点灯のことば

神様、今、私たちは 2 本目のろうそくを灯^{とも}して礼拝をします。神様が長い間、一人一人を大切にし、守り続けて下さったことを、聖書は証^{あかし}しています。神様の約束は、必ず成^なし遂^とげられると信じます。どうぞ、全ての人々の救い主イエス様を、私たちの所に遣^{つか}わして下さい。

聖書 エレミヤ書 36 章 1-8, 22-28 節（聖書協会共同訳）

¹ ユダの王、ヨシヤの子ヨヤキムの治世第四年に、次の言葉が主からエレミヤに臨んだ。² 「巻物を取り、私があなたに語った日から、すなわちヨシヤの時代から、今日に至るまで、イスラエルとユダ、およびすべての国々について、私があなたに語ってきた言葉を残らず書き記しなさい。³ ユダの家は、私が彼らに下そうと考えているすべての災いを聞いて、それぞれ悪の道から立ち帰るかもしれない。そうすれば、私は彼らの過ちと罪を赦す。」⁴ エレミヤはネリヤの子バルクを呼び寄せた。バルクはエレミヤの口述に従って、主が彼に語られた言葉をすべて巻物に書き記した。⁵ エレミヤはバルクに命じた。「私は閉じ込められていて、主の神殿に入ることができない。⁶ あなたは断食の日に行って、私が口述したとおりに書き記したこの巻物の中から主の言葉を読み上げて、神殿にいる民に聞かせなさい。また、それぞれの町から来るすべてのユダの人々にも読み聞かせなさい。⁷ 人々は主の前に願いを献げ、それぞれ悪の道から立ち帰るかもしれない。この民に主が語られた怒りと憤りが大きいからだ。」⁸ そこで、ネリヤの子バルクは、すべて預言者エレミヤが命じたとおりに、巻物に記された主の言葉を主の神殿で読み上げた。

²² 王は宮殿の冬の家にいた。時は第九の月で、暖炉の火が彼の前で燃えていた。²³ ユディが三、四行読むごとに、王は書記の小刀でそれを切り裂いて暖炉の火に投げ入れ、ついに、巻物をすべて暖炉の火で燃やし尽くした。²⁴ このすべての言葉を聞きながら、王もそのすべての家臣たちも恐れを抱かず、衣服を裂こうとしなかった。²⁵ エルナタン、デラヤ、ゲマルヤが巻物を燃やさないように王に懇願したが、王は聞き入れなかった。²⁶ かえって、王は、王子エラフメエル、アズリエルの子セラヤ、アブデエルの子シェレムヤに命じて、書記官バルクと預言者エレミヤを捕らえようとした。しかし、主は二人を隠された。²⁷ あの巻物、すなわち、バルクがエレミヤの口述に従って書き記したこれらの言葉を王が燃やした後に、主の言葉がエレミヤに臨んだ。²⁸ 「改めて、別の巻物を取れ。そして、ユダの王ヨヤキムが燃やした初めの巻物に記されていた言葉をすべて、それに書き記せ。

《先週のメッセージより》2025年11月30日 第1アドベント礼拝

「クリスマスを迎える準備」

牛田匡牧師

聖書 テサロニケの信徒への手紙Ⅰ 5章 1-11節

今日から「アドベント（待降節）」が始まりました。この時期に「到来する」のは「闇」で、12月の下旬には昼の時間が最も短くなる「冬至」を迎えます。しかし、いくら闇が深まっていっても全てが闇に飲み込まれてしまうのではない。大きく深い闇の中であっても、そこにも確かに光があるということを、聖書は「光は闇の中で輝いている。闇は光に勝たなかった」（ヨハネ1：5）と言っています。

今回のお話は、様々な迫害を受けていた困難な状況の中で書かれたパウロの手紙でした。エーゲ海に面した大きな港湾都市であるテサロニケの町の教会の人たちは、そのような苦しい迫害下の状況の中で、来るべき「主の日」、即ち「世界の終わりの日」、「救いの完成される日」のことを、「今か今か」と待ち望んでいました。そして「その日」はある日突然のようにやって来ること、それでも決して怖いものや恐ろしいものではありませんよ、と述べられています。なぜなら、「神は、私たちが怒りに遭わせるように定められたのではなく、私たちの主イエス・キリストによって救いを得るように定められた」（9）とあるように、「心配しないで大丈夫」、「私たちは目覚めていても眠っていても、いつも主と共に生きているから」（10）ということでした。自分の能力や努力では、もはやどうしようもなく、抵抗しようがないような大きな暴力や圧力を前にして、逃げ出すしかなかったり、また逃げ出すことも出来ず、ただ押し黙るしかできなかったり、絶望するしかないかのように思える時であっても、それでも尚そこには「確かに希望がある」と言えるかどうか。神の力が共に働いているということに信頼して、共に生きるため、励まし合い、恐れずに立ち上がり、立ち向かっていくことができる……。そのように励ましている手紙でした。

闇がいよいよ深くなっていくアドベントの4週間。暗闇から目を背けて、きらびやかな光に目を向けるのではなく、むしろ本当の光、この世を照らす神の光は、闇の中にこそ小さく輝いているということ。決して消えてしまうことなく、確かに灯っているということ。そして、私たち一人一人と、いつも共におられるということに、改めて目と心に向けていきたいと思います。クリスマスを迎える準備は、もう始まっています。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 2025 年 11 月 30 日 第 1 アドベント礼拝

礼拝出席 大人 3 人 献金 大人 3,000 円 中継視聴者数 21 回 感謝

◎次週 2025 年 12 月 14 日（日）待降節（アドヴェント）第 3 主日礼拝

教会での礼拝は休会（教会堂は閉室）です。メッセージのみを 14 日（日）10 時半から、YouTube で配信いたします。

招きの詞 詩編 85 編 9-12 節

聖 書 ルカによる福音書 1 章 26-38、57-66 節

メッセージ「おめでとう、恵まれた方」牛田匡牧師



◎お知らせ

- ・本日の礼拝後に、12 月期の「教会を考える会」を行う予定です。
- ・これまでの「週報」や「メッセージ（全文）」はホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分を YouTube でご覧いただくことも可能です。
- ・12 月の釜ヶ崎支援のための「おにぎり作り」は、休会です。釜ヶ崎・いこい食堂では毎年 12 月のクリスマスには、諸教会や諸団体、賛同者の方々から集められたお弁当を、お配りしています。今年も日本コイノニア福祉会の 3 施設（旭丘まぶね保育園、特別養護老人ホーム大阪好意の庭、特別養護老人ホーム第二好意の庭）から、65 食のお弁当を作って、クリスマス当日の 25 日にお届けする予定です。
- ・今年も「クリスマス献金」を集めています。献金先は昨年度と同じく「関西学院大学神学部後援会」「日本基督教団部落解放センター」「一般社団法人神戸国際支縁機構」「生活困窮者支援（釜ヶ崎への毎月のおにぎり支援基金、他）」「関西労働者伝道委員会」「アハリー・アラブ病院を支援する会」「ナルド献金（大阪教区・互助特別献金）」の 7 団体です。各団体の詳細や活動内容については、それぞれの団体のチラシや、ウェブサイトなどを、ご参照ください。
- ・12 月 21 日（日）はクリスマス礼拝です。皆でクリスマスをお祝いしましょう。どなたでもご参加ください。礼拝後に、皆で愛餐会（昼食会）があります（無料）（事前のお申し込みは不要です。食事の持ち寄りを歓迎いたします）。

◎次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
12/14	(アドベント)(第二好意の庭・クリスマス礼拝) 教会堂での礼拝は休会です (Youtube配信のみ行います)	
12/21	牛田匡牧師	クリスマス礼拝・ユーカリスト 愛餐会 14時～キッズクリスマス
12/28	牛田匡牧師	歳末礼拝・誕生者祝福式
26/ 1/4	牛田匡牧師	新年礼拝・ユーカリスト 教会を考える会



クリスマス献金のお願い

今年 2025 年は、様々な不安が広がったような一年でした。地球規模の気候変動による自然災害も各地で続いていますし、戦争も未だ収束していません。世界経済の中での米ドル安、円安による物価高が、それぞれの方の生活や様々な活動を苦しめています。それらの息苦しさを、特定の誰かのせいにするような排外政策を主張するような極右政党が世界中で伸びているのは、恐ろしいことです。そのような時代の流れの中でも、今年もまたクリスマスの時季がやってきました。今からおよそ 2000 年前のイエス・キリストがお生まれになった時代も、暴力と差別、格差と貧困など、大変厳しい社会情勢でした。そのような時代に、神は人々に真の平和を与えるために、最も小さくて弱い存在である赤ちゃんとしてこの世界にお生まれになりました。真の平和は戦争からは生まれません。最も低く最も小さくされている所からこそ、希望の光が広がっていったことを、心に覚えたいと思います。このような厳しい状況の中でも、私たちの教会から今年も「クリスマス献金」を送りたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

① 関西学院大学神学部（後援会） https://www.kwansei.ac.jp/s_theology
（教会の牧師やキリスト教教育主事の養成のために）



② 日本基督教団 部落解放センター <https://blc-uccj.org/>
（部落解放・教会の解放・個人の解放のために）



③ 一般社団法人 神戸国際支縁機構 <https://kisokobe.sub.jp/>
（世界中の被災地と被災者の支援のために）



④ 生活困窮者支援（釜ヶ崎・いこい食堂への毎月のおにぎり支援基金、他のために）

⑤ 大阪教区ナルド献金（教区内の教師互助・教会伝道互助のために）

⑥ 関西労働者伝道委員会（釜ヶ崎で 60 年前から、医療支援・住居支援・炊き出しなどの活動をされています。その活動の継続のために）

⑦ アハリー・アラブ病院を支援する会

ガザ北部にある「アハリー・アラブ病院」は、1893年に設立されたパレスチナ最古の病院でしたが、激しい攻撃の中で施設も破壊され、薬や器具も足りない状態が続いています。病院での日々の救命活動のために。



昨年は、総額 72,000 円の献金が集まり、「生活困窮者支援」に 12,000 円、他の 6 団体に 10,000 円ずつを献金いたしました。

同封の郵便振替用紙をご利用、または下記の口座に直接お振込み頂く際には、「クリスマス献金」「教会への献金」と内訳をご明記ください。なおお払込受領証をもって領収書に代えさせていただきます。

郵便振替番号: 00980-5-212130 口座名義: 日本基督教団久宝教会